

第22回太宰府市まちづくり市民会議幹事会

平成25年3月13日(水) 19:00～

於 市役所4階404会議室

出席者：原田・大藤・中島・大森・笠利・古賀・平嶋・船越・前田・御笹・山崎

欠席者：

1. 開会(19時～)

2. 第14回市民会議の結果(19時05分～)

1) テーマごとの班別意見交換のまとめ

2) ニュースの確認

3. 第15回市民会議について(19時30分)

4. ジュニアリーダーとの意見交換(20時10分～)

5. その他

次回幹事会 平成25年 月 日() 時～ 会議室

- ・子育て支援を、対象年齢をしばって考えるのか？
- ・不登校、ひきこもりの実状と対策
- ・文部科学者と厚生労働省
縦割りなしで、考え、取り組むことではないか

- ・「高齢者あんしんダイヤル」と「こんにちは赤ちゃん」は同じである
- ・10年後を見据えての計画づくり。
家族、親のあり方、考え方がくずれつつある 地域福祉とかぶる
- ・特別支援学級、特別支援学校、母親の横のつながり
- ・保護者のニーズ（要求）と
自助 共助 公助

共助

- ・自治会内で子育て相談できる場や高齢者をつくっていく
- ・私的な支援グループ（自治会、同病の親の会、医療関係者、ボランティア団体等）
- ・地域の人材を活用（保育士、看護師）
- ・計画づくりには多数の市民参加を生む機会を増やす
- ・子育て基金、募金をつくる
（子育て支援の団体に助成）
- ・高齢者と子どもとの交流（スポーツ、文化、読み聞かせ等）

公助

- ・子育ての中心は公助
- ・行政内の調整と協力
- ・公的なセーフティーネット
（あずけ先、相談先、かけこみ先）
- ・子育て政策の中心は保育所での公的保障
（待機児童の存在は問題外）
- ・0～3才までの家庭の中での子育ての重要さと厳しい現実。誰か助けがないと子どもを育てながら働く事は困難

聞いてみたいこと

- ・緊急時の子どもの居場所（事故や病気）は？
- ・待機児童の解消が必要（5才未満、就学前）
- ・小学校の学童保育待機は？
- ・市の公認保育所は何ヶ所か？
収容人員は？
不足する場合の対応は？
- ・子育てに必要な費用（医療費、保育費）について行政からの補助は？
- ・ここにコプランの進捗状況と今後のすり合わせは？
- ・行政内でタテヨコの連携がとれているか？
- ・自治会と“子ども”の関係性かかわり方など現状を知りたい

・子育ての相談をする場所が少ない

- ・子ども会が自治会に参加しながら防災活動、訓練などを行う
- ・子どもの参加と楽しさがあれば、他自治会からも参加がある（水城ヶ丘区）

- ・子どもが将来を担うのであくまでも大切に育てる
- ・親だけでなく地域（社会）でも子どもを育てる

待機児童

- ・待機児童対策はいろいろやっている
- 無認可保育園の認可や定員増・増築等
- ・保育所不足
- ・本当の待機児童って？

- ・「子どもに明るい未来を」→具体的には？
- ・「義務教育の範囲は行政の仕事」と割り切りすぎ。時間外についての児童保育、育成の体制が未定
- ・子育ては親の責任だが、安心して育てる環境をつくるのは行政の仕事。
→その環境がほとんど出来ていない
- ・子どもと高齢者との交流の場が少ない。高齢者の知恵を伝える場をつくる
- ・学校の空き教室が実はそれ程ない
→少人数学級や児童数の増
- ・なぜ小学校の近くに電波塔があるのか？

家庭・地域く小さな成功体験の積み重ね

- ・ボランティアでは長続きしないので、持続可能な取り組みが求められる

自治会と子育て支援がどう結びつくべきか？

- ・自治会のサークルからはじめる
- ・自治会から金銭的な補助も考えては？
- ・アンビシャス活動を全校区に広げて欲しい
- ・サポーター制度
 - ・区内だけでなく、校区ごとに広げると人材も多様になる
- ・集まりがあれば人と人との交流や縁が生まれるのでは
- ・子ども会活動への不参加者が増えていることをどう考えるか
- ・地域で見守るということ
- ・「考える」を育てる
- ・自治会施設を活用した保育を事業として取り組みたい
- ・子どもとお年寄りとの交流を図る

学童保育はなぜ6年までないのか？

(他市と比べて) 施設もよくない

- ・質がちがう、成り立ちが違う(他市と)
- 太宰府は行政がつくった学童保育だから
しぼられる

親は学童保育に何を要求しているのか？

- ・昔は子どもが勝手に遊んでいた。環境が変わった
- 子どもたちの縦の関係がなくなった

運営の基礎が親か？行政か？

- ・親と行政が歩み寄らなければならない
- ・役割分担をすると進んでいく
- ・いろんな人が関わることで心配事も増える
- ・市民のニーズが多様化して行政だけでできない。
みんなで協力していきたい。

- ・多様化した働き方に対する行政の対応
- ・行政からの働きかけがもっと欲しい

2 班の議論の要旨

問題点は大きく次の3つがあがった。

- ① 待機児童（保育所不足）
- ② 学童の施設や制度
- ③ 地域とのつながりの薄さ。

昔は兄弟も多く、近所の者が一緒に子どもを育てていた。母親はほとんどが専業主婦。しかし、今は一人っ子も多く、共働き家庭。地域と関わる時間も少なくなっている。

このように家族の形態や働き方は変化しているにも関わらず、学童や保育所の形態は昔のまま。まずはこのズレが問題である。

学童保育を例にあげると、太宰府市は、利用は4年生まで、設備は古いプレハブ、おやつは駄菓子。近隣の春日市は同じ保育料でありながら、利用は6年生まで、設備は二階建てログハウス、手作りおやつという恵まれた環境。この差は非常に大きい。

行政に何うと、「予算の配分が違う」「成り立ちが元々、春日市は保護者（主導）、太宰府は行政（主導）という違いがある」と言われるが、今となっては成り立ちの経緯など重要なことではない。

他市が6年までの利用に移行している中、太宰府市は変えようとする姿勢が全く見えない。その意識の低さそのものが問題なのである。

■解決の方法、方向

【地域側から】

地域には保育士や介護士など、資格を持ちながらそれを活かしていない方も多い。まずはそのような方をボランティアとして、あるいは自治会で若干料金を負担し、一つの取り組み事例として成功させれば、それを次は校区単位に広げていく。ニーズのあることが証明できれば、行政側も必要性を感じ、動きやすくなるのではないかな？

ただ行政からの支援を待つのではなく、地域から声をあげ、参画していくことが大事である。

また、このような取り組みを行えば、子ども同士の縦のつながりが生まれると同時に、地域とのつながりも生まれてくるはずである。

【行政側から】

時代に合った（多様化した）働き方に対する制度や取り組みを提案し、発信することが重要である。行政が市民と役割を分担しながら協働し、「できない」ではなく、「どうしたらできるか」を考えることが必要。

- ・生きていくために本質的に必要なことは何だろうか
- ・自助、共助、公助がうまく機能すれば素晴らしい街が出来上がると思う
- ・共助に対する意識、役割分担

- ・生きていくために本質的に必要なことは何だろうか

- ・自助、共助、公助がうまく機能すれば素晴らしい街が出来上がると思う
- ・共助に対する意識、役割分担
- ・公助の目線、家族崩壊、データベース

- ・どうすれば機能するだろうか
- ・うまく機能させるにはどうすればよいだろうか

確かめたいこと

- ・共助 どこでどんなことをしているか

- ・(極論として) 昔のシステムに戻す
例) 講・結

- ・自分にできることをそれぞれが考えて行動していく

- ・自助、共助、公助の共通認識をもつ

- ・自治基本条例として昇華させる方法は

市民検討

- ・市民として分類(高齢者、健康者、幼児者)をしていかなければならないのか
- ・子どもの世話になりたくない高齢者が増えている

再検討システム確立

- ・福祉評価方法は条例として一本化でできるのではないか

任期を決めるべきではない

- ・民生委員、福祉委員のなり手がいない
- ・地域で福祉ボランティアへの参加者が少ない

社協の独立経営をめざす(人事等の独立性)

- ・社協は介護保険事業を行うべきと思う
- ・社協は市の地域福祉計画に沿って計画を立てるとのことだが、むしろ市で計画実行できない福祉サービスについて計画実行をすべきではない
- ・先ほどの説明に出ていたが、日・祭日のサービスに対応すべきではないか
- ・社協のトップ(会長)は専門知識をもつ者が担当すべきであり、市の出向者では無理

民間経営

- ・地域包括支援センターは民間に移すべきと思う(2~3ヶ所)

・民の大きさ（ボランティア）
・官が全てではない

・危機は仲間づくりの最大のチャンス

・問題点はまず地域で話し合う。ボランティア支援センターに相談する
・隣人との普段（又は不断）のお付き合いによる絆の輪をつくる努力を！

・ボラセンの役割重要
・地域に出ていくことで、スタッフが育つ

・ボラセンは地域に出ていく
→スタッフを育てないといけない

・災害が起きた時は自分で逃げるしかない
・災害は春夏秋冬、朝昼晩夜、晴雨、寒暖の全ての可能性がある
・誰が誰に頼るのか？

・災害後、しばらく経った後の時期にどうするのか。「絆」しかない
・問題を持った人が集まると「ひらめき」が生まれる

・避難手段についても非現実的。連携策（避難の具体的な）の構策（言うは易く、行うは難しい）
・避難場所に行くのに川を渡る必要があり、災害時に道がふさがれるかも
・市は災害時の避難場所を第一に「公民館」としているが、古い建物多く、不適場所多し、又、高齢者の避難場所として不適。もっと抜本策が必要

・避難場所の設定は例えば自治会に委ねた方がより現実的では？
・避難場所について勉強して市民から提案

・レッド、イエローゾーンとあるが、災害は同じ場所でおきている
・どのレベルの災害を考えるべきか？
→最悪の事態を考える

・備えあっても憂いはあるがそれでも備えが必要

・講座受講者 30 人/1 回

- ・地域の絆が切れている
- ・各区の計画の進捗状況はどうなっている？
- ・市の防災計画はどうなっている？

- ・防災会議はどんなもの？
- ・防災会議（市長、区長）1回/年 自衛隊、警察（専門家）
- ・防災会議の情報が見えてこない
- ・メンバーの選出方法
- ・女性が少ないこと

- ・市役所、ボランティアの連携はどうなっているのか
- ・住民→社協、ボランティア→市役所
- ・自治会の地域力を高める→防災部、防災担当
- ・市民、コミュニティ、市役所の役割分担をどうするのか、全て市役所か

- ・有事の際に助け合う（つながる）方法は
- ・どこに避難するか

- ・防災地域は場所の差がある？

- ・太宰府市は警固断層、宇美断層の範囲にあり、30年以内に発生の確率にありという学者の予想

- ・情報の共有
- ・防災情報の徹底

- ・公的機関には頼れない
→自助・共助が担うこと
- ・要援護者
→必要な方と手を上げない方も把握する
- ・自治会から組（10～20戸）へ
→望ましい地域力
- ・体制が整っている自治会もある
→直面した所ほど整っている
- ・自主防災のマニュアルを伝えて、自治会でつくってもらう
（例えば、お手伝いしますボランティア）
- ・居安思危（こあんしき）

太宰府市自治基本条例(仮称)

まちづくり市民会議 ニュース

14号

「子育て支援、地域福祉、防災」について議論しました

プログラム

1. 開会あいさつ
2. 幹事会の報告
3. 本日のプログラム
4. 「個別の政策課題」の分析
 - (1) 話題提供
 - (2) グループ分け
 - (3) 意見交換
 - (4) 発表
5. 閉会

市民会議の流れ

- | | | |
|------|----------------|-----------------------------------|
| 第1回 | H24. 1. 16(月) | ・ 条例の制定の手順と市民会議の役割と体制 |
| 第2回 | H24. 2. 2(木) | ・ 参加者の範囲 ・ 会議の進め方 |
| 第3回 | H24. 3. 7(水) | ・ 幹事会の役割と構成 |
| 第4回 | H24. 4. 19(木) | ・ 幹事会の役割と構成 ・ 設置 |
| 第5回 | H24. 5. 24(木) | ・ 自治基本条例制定の経緯と動機
・ 市における課題や不満等 |
| 第6回 | H24. 6. 29(金) | ・ 課題や不満等の集約内容の点検 |
| 第7回 | H24. 7. 27(金) | ・ 「情報共有」の分析 |
| 第8回 | H24. 8. 23(金) | ・ 分析から条例への道筋
・ 「議会」の分析 |
| 第9回 | H24. 9. 26(水) | ・ 「市民」の分析 |
| 第10回 | H24. 10. 29(月) | 勉強会
・ 自治基本条例とは何か、なぜ必要なのか |
| 第11回 | H24. 11. 22(木) | ・ 「市民参加の仕組み」の分析 |
| 第12回 | H24. 12. 19(水) | ・ 「職員・市長」の分析 |
| 第13回 | H25. 1. 25(金) | ・ 「行政」の分析 |

太宰府市における住民自治の基本ルールを定める『自治基本条例(仮称)』づくりの第14回まちづくり市民会議が、平成25年2月20日(火)、いきいき情報センター多目的ホールで開催され、登録総数79人中33人の参加があり、傍聴は6人でした。

今回の会議は、まず「子育て支援、地域福祉、防災」のそれぞれの分野に詳しい方に現状や活動内容、想いなど話題提供をしてもらいました。そして、参加者はそれぞれ自分が興味のある分野に分かれて、意見交換を行いました。

それぞれの分野が2つずつのグループを形成し、現状などを聞いて感じたこと、気づいたことなど伝え合い、見えてきた課題などを解決する方法・方向を考えました。いずれもこれからの太宰府市を考えていく上で、重要な内容であり、これまでと趣向を変えて、市民が話題提供をすることで、お互いの活動を知り合う場となりました。

「防災」について議論

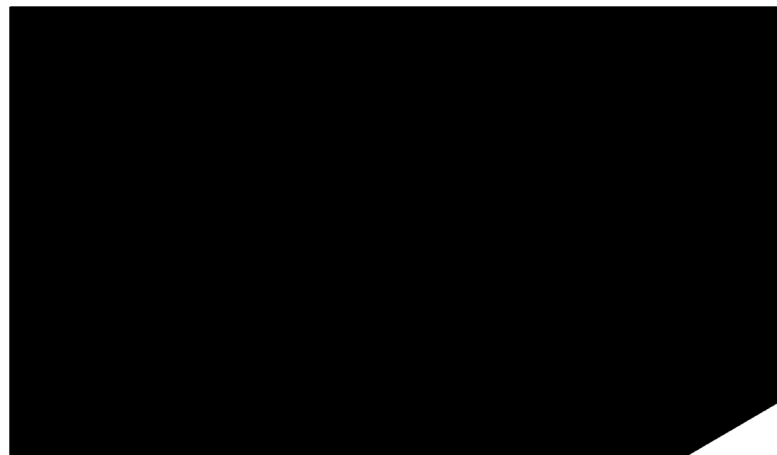
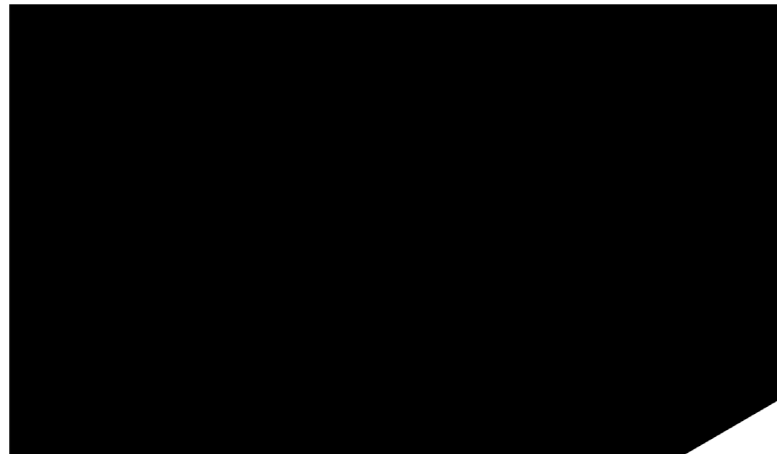
■話題提供のキーワード：(発表者) 富永敦夫さん

- ・ 災害ボランティア講座の経緯は災害現場の体験の報告会から始まりました
- ・ “災害を知り、備える！”この大切さをみんなで学び、自助・共助・公助の仕組みづくりについて具体的に考える
- ・ 災害ボランティア講座は、太宰府市 NPO・ボランティア支援センターが主催し、太宰府市社会福祉協議会と防災士で構成される「防宰ボランティアネットワーク」が共催
- ・ 自主防災組織を中心に防災を考えていくことが大事



富永さん

■各班の議論の様子と発表要旨 (上：5班、下6班)



「子育て支援」について議論

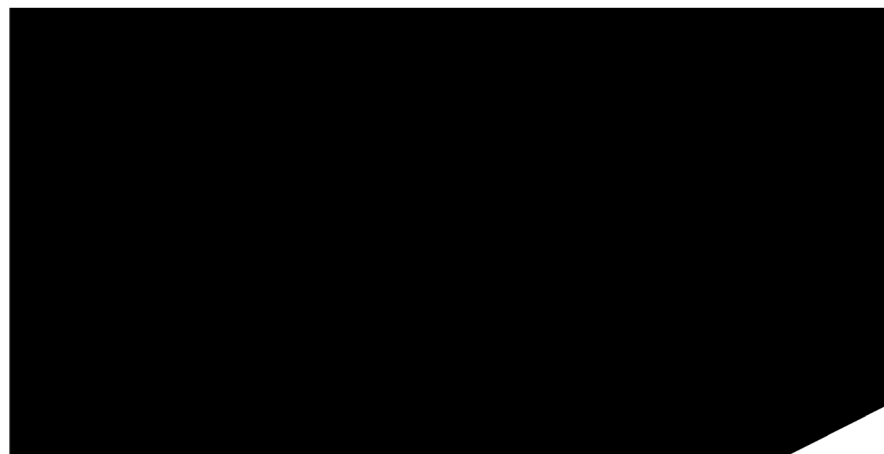
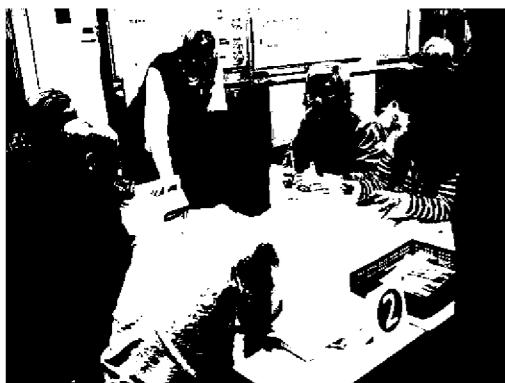
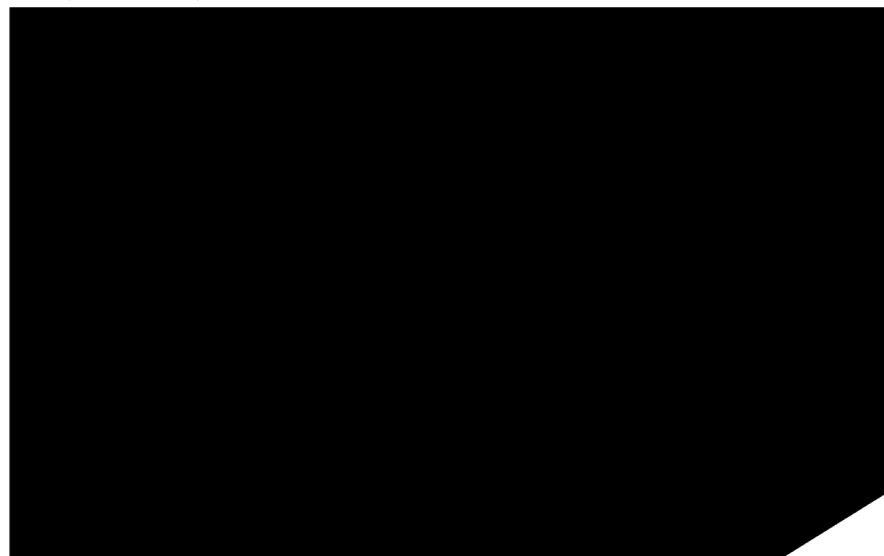
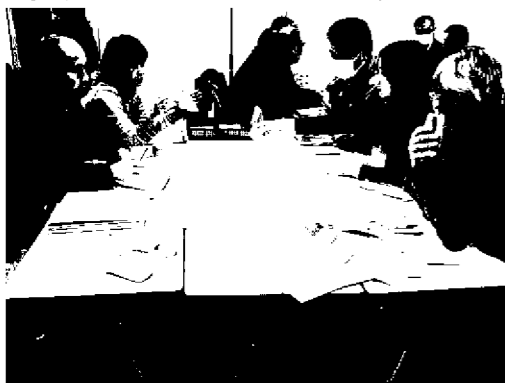
■話題提供のキーワード：(発表者) 藤本史子さん

- ・「赤ちゃんも太宰府市民」
- ・就学前の子どもの数は約 4,000 人
- ・幼稚園、保育園に行かない赤ちゃんの情報把握の法律（決まり）がない
- ・地域で子育て、子どもの見守りを推進
- ・若いお母さん（地域が苦手かもしれない）のサポートの必要性
例えば、地域のつながりで災害時の不安解消など
- ・市民として幸せに生きたい。だから市民がもつ “使命”（自ら頑張る）がある
- ・市民も行政職員も連携して、気持ちよく活動できる環境づくりが必要
- ・ぼびんずの活動：託児ボランティア、ファミリーサポート、緊急サポートのアドバイザー等
- ・幼稚園の延長保育もあるが、フルタイムで働きたい親が多い
- ・子育て支援センターの活動紹介
- ・“こんにちは赤ちゃん訪問” は 96～97%の訪問率。第1子は保健士、第2子から保育士が訪問



藤本さん

■各班の議論の様子と発表要旨（上：1班、下2班）



「地域福祉」について議論

■話題提供のキーワード：(発表者) 森口忠彦さん

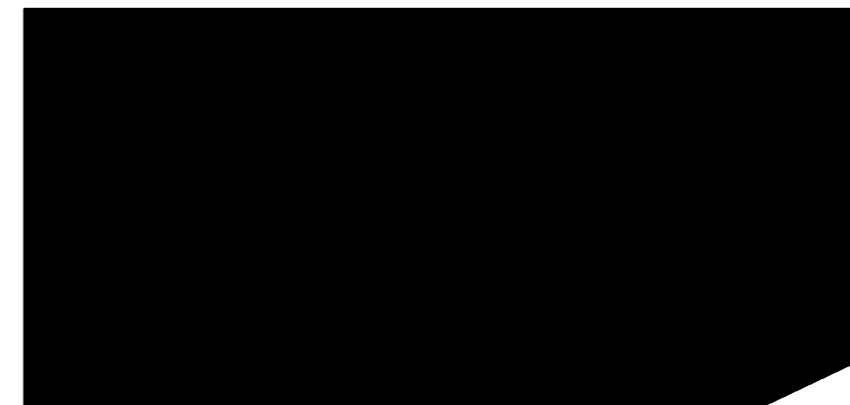
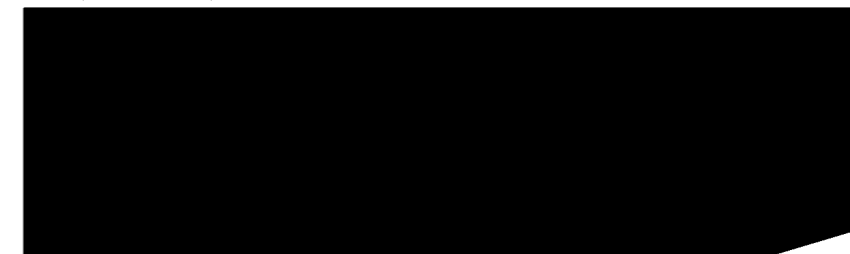
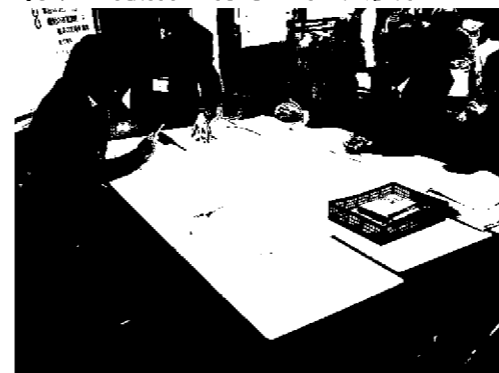
(太宰府市地域福祉計画の論点と課題)

- ・自助・共助・公助の関係と役割分担
 - ・福祉サービス提供のための「圏域」の設定
 - ・アウトリーチ体制（待ちの福祉から出向く福祉へ）
 - ・見守りデータベース（高齢者や障がい者データベース）による即応体制
 - ・福祉サービス受付時間の問題
 - ・総合受付体制の構築
 - ・実行計画の検証体制の構築
 - ・福祉計画を全市で推進するための「福祉推進係(仮称)」の創設
- (自治基本条例(仮称)へ反映すべき課題)
- ・「公助」は社会のセーフティネットであることから、福祉基盤整備に積極的に取り組む
 - ・福祉のみならず各種長期計画の策定には一般公募委員を一定割合確保する
 - ・長期計画の推進に当たっては一般市民参加による「計画の検証体制」を整備し、結果を市民に公表する
 - ・福祉サービスの窓口受付体制(包括支援センター、社会福祉協議会)を「土日祭日」に拡大する
電話受付体制は 365 日 24 時間体制とする



森口さん

■各班の議論の様子と発表要旨（上：3班、下4班）



太宰府市自治基本条例 第 15 回まちづくり市民会議プログラム (案)

時間	内 容	■市、□UDC
<p>17 : 30</p> <p>18 : 00</p> <p>18 : 30</p>	<p>○スタッフ集合、会場設営 6 班準備 (6 班×7 名=42 名→45 名を想定)</p> <p>※前に貼り出すもの プログラム 全体構成</p> <p>※テーブルの上 プロッキー 付箋紙(赤・黄・青) ラシヨンペン 模造紙</p> <p>※6人グループを参加人数に 合わせて増やす</p>	<p>■テーブル、イス</p> <p>■マイク×2</p> <p>■受付名簿</p> <p>■名札、ケース</p> <p>□ガムテープ</p> <p>□模造紙</p> <p>□プロッキー</p> <p>□ポストイット</p> <p>□ラシヨンペン</p> <p>□カメラ</p>
<p>19 : 00</p>	<p>1. 開会 (協働のまち推進課)</p>	
<p>19 : 00 (10)</p>	<p>2. 幹事会の報告 (幹事会)</p> <p>(1) 前回の市民会議とその後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 14 回まちづくり市民会議における成果を分析 <p>(2) これまでの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の分析と、条文に盛り込むべき内容の素材を抽出 <p>(3) 本日のテーマ「まちづくりの将来像」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は「前文の素材収集」を行う。 ・参加者に「○○なまちになったらいいな」で問いかけ、自由に太宰府の将来あるべき姿について伝え合う 	<p>■式次第</p>

	さて、ここからの進行は、十時さんをお願いします。 (以下、十時進行)	
19:10 (10)	3. 本日のプログラム (アーバン) ・進め方の説明 (補足・前文の解説) ・グループ内自己紹介	■プログラム ■全体構成

プランA

19:20 (25)	4. まちづくりの将来像を描く (1) 太宰府はどんなまちか？ ・「まちの歴史、文化、環境や自治の取組み など」を黄色ポスト イットに各自が記入。 ・同じような項目を集め見出しをつけて整理。	
19:45 (25)	(2) どんな太宰府がいいか？ ・「自治のかたち、あるべき姿」を赤色ポストイットに各人が記入。 ・同じような項目を集め見出しをつけて整理。	
20:10 (25)	(3) 何をしていくか？ ・「あるべき姿を実現するために重要なこと、実施すべきこと・市 民の決意表明 など」を青色ポストイットに各自が記入。 ・同じような項目には見出しをつけて整理	
	<p>The diagram illustrates a collection of sticky notes. On the left, there are three notes: one labeled '自然・歴史' (Nature/History) with two blacked-out boxes, one labeled '人のつながり' (Connections between people) with two blacked-out boxes, and one labeled '話し合い' (Discussion) with two blacked-out boxes. On the right, there are two notes labeled '○○のまち' (○○ Town) with two blacked-out boxes each. A large blacked-out box is also present at the bottom left of the diagram area.</p>	
20:35 (15)	(5) 発表 ・グループの数と時間をみながら発表	
20:50	5. 閉会 ・次回の案内 日時：平成25年__月__日 () 場所：	■アンケート

プランB

<p>19 : 20 (20)</p> <p>19 : 40 (20)</p> <p>20 : 00 (20)</p> <p>20 : 20 (30)</p> <p>20 : 50 (10)</p>	<p>4. まちづくりの将来像を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカフェ形式で「太宰府の将来をどんなまちにしたいか」について、自由に意見を出し合う <p>ステージ1（今のテーブルで） ↓（幹事会がホスト役として班に残る）</p> <p>ステージ2（他のテーブルへ） ↓</p> <p>ステージ3（他のテーブルへ） ↓</p> <p>ステージ4（元のテーブルへ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もとの班へ戻り、幹事は班の中で話されたことを伝える 戻ってきた人は、他の班で聞いてきたことを伝え合う ・「あるべき姿を実現するために重要なこと、実施すべきこと・市民の決意表明 など」を青色ポストイットに各自が記入。 <p>(5) 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの数と時間をみながら発表 	
<p>21 : 00</p>	<p>5. 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の案内 日時： 平成 25 年__月__日（__） 場所： 	<p>■アンケート</p>